



試練をチャンスに 食の成長分野へ積極展開

手軽に食べられ健康志向にもマッチするとあって、外食産業やコンビニ等で人気のカット野菜。奥州市の株式会社ハローワークは卸売市場経営で培った知識を元に事業参入、国内の大手野菜加工メーカーと直取引を行っている。大震災で工場流出の被害を受けながら、果敢にそして柔軟に経営の舵取りを行ってきた錦山会長に、展望も含め伺った。

食の成長分野「カット野菜」にいち早く参入、実績を重ねる

外食産業の拡大や高まる一方の健康志向などにより、日本人の食生活が多様化している。それにともない急成長しているのが、カット野菜の市場だ。ファミリーレストランや居酒屋での野菜料理をはじめ、コンビニエンスストアやスーパーにはサラダパックなどの個食用商品が並び、学校給食や病院・介護の現場でも需要が伸びている。

奥州市水沢区に工場を置く株式会社ハローワークは、ほんの10年ほど前までは総菜の“付け合わせ”程度だったこのカット野菜に注目し大船渡市から進出、素材調達から加工そして流通までの一貫体制を順

次整え、今や東北6県はおろか新潟県までをカバーするまでになった。今年5月9日には同区内に第二工場を開設し、国内最大手野菜加工メーカーの東北製造拠点のひとつとして、新事業へと取り組んでいる。

創業は平成元年。代表取締役会長の錦山功さんが、岩手県地方卸売市場の敷地内に別会社として株式会社ハローワークを設立した。同時期、弁当事業に乗り出した県内食品メーカーとの提携も追い風になったが、そこには「祖父の代から八百屋だった」と話す錦山会長の、経験による確信もあったといえる。平成14年には水沢第一工場が完成し、18年には仙台物流センターも稼働した。

ピンチをチャンスに変える力が大手企業との提携にも繋がった

順調な展開を阻んだのが、あの震災だった。大船渡市の中港にあった工場は、津波と流入した瓦礫により破壊された。代表取締役社長の錦山恵美子さんはいう。「震災後、大船渡に工場を再建しようと手を尽くしました。しかし敷地のかさ上げに莫大な費用がかかり、復興計画の遅れなどもあって断念せざるを得なかったのです」。

失ったものは大きかったが、錦山会長と恵美子社長はこれを契機に事業拠点の水沢区への集約を決定。大船渡工場と同じく震災で被災した物流センターも仙台から水沢へと移転、生産現場(工場)と流通(物流センター)を一元管理出来る体制を整えた。「水沢からは、青森県にも福島県へも3時間で行ける。東北エリアをカバーするに、全然問題はないんです」と錦山会長はいう。

体制の変化に加え、新設の第二工場では生産現場での意識改革もあった。なんといっても提携先は国内トップの野菜加工メーカー。「経験があると『これぐらいなら』と手を出すのが人間。今回はそれが通用しないから全員新卒を採用し、東京のメーカー本社で2ヶ月の研修を受けてきました」。トップ企業の生産管理システムを吸収できることは、厳しさ以上に得るものが多い。当センターとは設備貸与での協力関係を築いてきた錦山会長は、「今後は様々なパートナーシップにも期待している。

同社では自社商品の開発にも取り組んでおり、すでにスーパー等で調理される業務用総菜キットや、学校給食会やコンビニ等との取引も行っている。「高い生産ノウハウを持ちつつ、大手にはやれないことにも挑戦する」と錦山会長。そのしなやかな戦略が、同社のさらなる拡大を予感させた。

我が社の
「かこぶ」
はコレ!

卸問屋や商社の担当者も
当社の「営業マン」

取り引き先と当社を結ぶ卸問屋や商社の人たちは全国を歩いているため、さまざまな情報や食のトレンドを知っています。彼らとタッグを組むことで、商品開発などにも役立ちます。彼らもハローワークの大事な「営業マン」ということです。

代表取締役会長
錦山 功



会社名 株式会社 ハローワーク
 本社 奥州市水沢区卸町3-18
 電話 0197-47-5171
 代表者 錦山 功
 創業 平成元年11月
 従業員 117名(パート含む)
 業種 野菜・果物全般卸売、加工野菜・加工フルーツ野菜・果物にかかる1次・2次加工品
 U R L <http://www.hello-work.co.jp/>

発信!!
いわての
かこぶ

【支援企業紹介】奥州市
株式会社ハローワーク

